

□海外文献紹介□

***Helicobacter pylori* と胃癌：胃炎，腸上皮化生，胃癌組織との関連**

Helicobacter pylori and gastric cancer: correlation with gastritis, intestinal metaplasia, and tumour histology: Wee A, et al (Gut 33: 1029-1033, 1992)

Helicobacter pylori (以下 HP) が胃癌発生と関連があるとの主張がある。この研究は，胃癌の異なる組織型(腸型とびまん型)における HP，胃炎，腸上皮化生との関連を明らかにするために行われた。

研究材料は 169 例の胃切除例で，

腺癌が 156 例，うち腸型 87 例，びまん型 50 例，混合型 19 例であった。

まず胃炎は体部で 84%，幽門洞で 96%と高頻度にみられ，胃癌の組織型との関連は認められなかった。萎縮性胃炎は，体部，幽門洞とも腸型のほうがびまん型より頻度が高かった。腸上皮化生は，体部では腸上皮型でより高頻度であったが，幽門洞では両組織型とも同程度であった。

HP は体部で 62%，幽門洞で 43%に認められた。HP は腸型癌では，体部で 62%，幽門洞で 34%，びまん型では，体部 60%，幽門洞 45%で，両組織型間でほとんど相違を認めな

かった。つまり両組織型で同様の頻度で存在した。

HP と胃炎は，胃癌中に高率に併存していたが，胃癌の組織型との間に相関を見出せなかったゆえ，HP は胃癌の原因ではなさそうに思われる。

この研究からは，Correa の「HP 感染が胃炎を起こし，更に萎縮性胃炎，腸上皮化生へと進展し，胃癌の母地になる」との仮説が成立しないことが判明した。

(愛知県がんセンター消化器内科

小林 世美 抄)